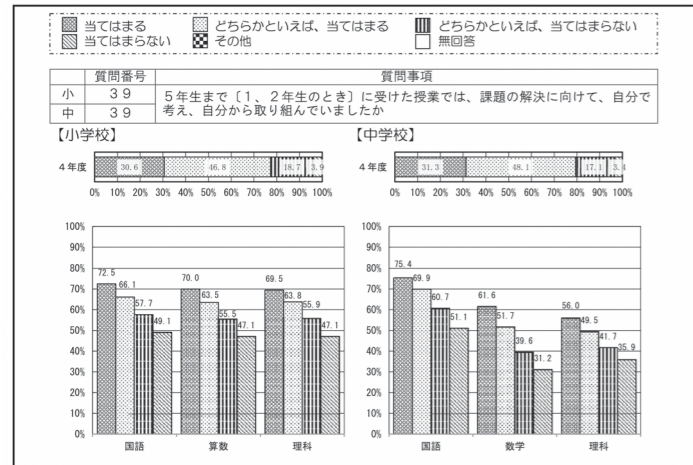


調査結果等の集計・分析・提供

集計・分析

- ◇国全体、各都道府県、地域の規模等における調査結果を公表
- ◇児童生徒の学習環境や生活習慣、学校における指導や教育条件の整備状況等と学力の相関関係を分析、公表

▼公表する調査結果の例



提供

- ◇各教育委員会、学校に以下の調査結果を提供
 - ・児童生徒の正答数分布図
 - ・設問別正答率・無解答率、類型別解答状況
 - ・質問調査の結果
 - ・各児童生徒に提供する「個人票」 など

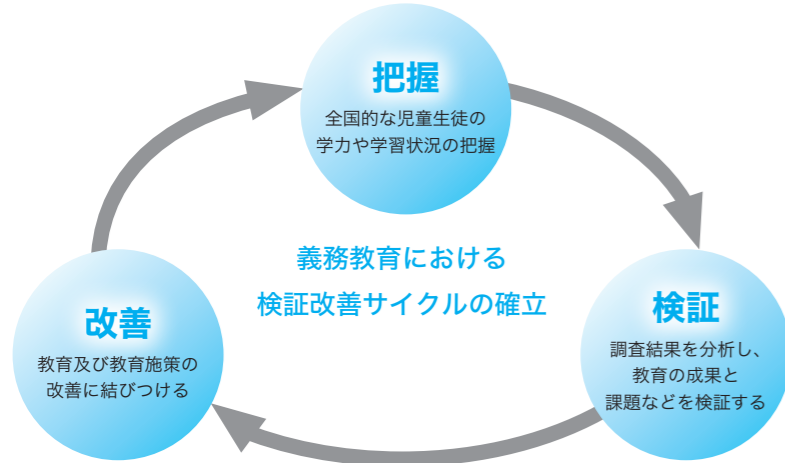
▼「個人票」のイメージ



中学校理科は、IRT スコアをベースに調査結果を示します。

IRT：児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。項目反応理論（Item Response Theory）。

調査結果の活用



国	教育の改善に向けた全国的な取組を推進 (例) 学習指導要領の改訂、各種施策の検証・改善、教員の配置等への支援、教育委員会や学校における改善の取組への支援 など
教育委員会	域内の教育の改善に向けた取組を推進 (例) 教員の配置等の工夫、教員研修の充実、学習指導等の改善のための資料の作成、保護者や地域と連携した取組 など
学校	個々の児童生徒の課題に応じた学習指導の改善に向けた取組を推進 (例) 教科に関する調査や質問調査の結果の総合的な分析、課題を踏まえた授業改善・校内研修、学習・生活習慣に関する保護者への働きかけ、放課後等における補充学習 など

◎全国学力・学習状況調査を活用するための参考資料等

■全国学力・学習状況調査解説資料

調査の実施後、各教育委員会や学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握するとともに、それらを踏まえて調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実に取り組む際に役立つことができるように作成したもの。

■全国学力・学習状況調査報告書

調査結果を公表するとともに、調査結果を踏まえて学習指導の改善・充実に役立つことができるように作成したもの。各問題について、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導の改善・充実に役立つポイント等を記述。

■授業アイデア例

各学校において、今後の教育指導や児童生徒の学習状況の改善等に活用できるようにするため、全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえて、授業の改善・充実に役立つ際の参考となるよう、授業のアイデアの一例を示すもの。

■全国学力・学習状況調査の結果を用いた追加分析

国や教育委員会、学校等の教育活動や、教育施策の一層の改善を図るため、大学等の研究機関の専門的な知見を活用し、高度な分析・検証を行った調査研究の報告書。

〈分析例〉

- ・効果的な指導方法や取組について
- ・教育委員会や学校における調査結果の分析・活用手法について
- ・児童生徒の社会経済的背景（SES）と学力の関係について

文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/
 国立教育政策研究所 HP <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

全国学力・学習状況調査

検索



文部科学省

令和7年度

全国学力・学習状況調査

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

調査実施日：令和7年4月17日（木）

中学校理科の実施日：令和7年4月14日～4月17日のうち1日

調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

中学校理科は、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施します。

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的学習習慣等、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎小学校

4月17日（木）	1時限目	2時限目	3時限目
	国語（45分）	算数（45分）	理科（45分）

調査実施日※1	※2
	児童質問調査（20分程度）

※1 4月18日（金）～4月30日（水）のうち1日（学校ごとに指定）

※2 各学校の状況に応じて、調査時間を設定してオンライン方式で実施。調査実施日に実施できない場合は学校外での実施も可。

◎中学校

4月17日（木）	1時限目	2時限目
	国語（50分）	数学（50分）

調査実施日※3	※4
	生徒質問調査＋CBT練習（25分程度）
	理科（50分）

※3 4月14日（月）～4月17日（木）のうち1日（学校ごとに指定）

※4 各学校の状況に応じて、生徒質問調査→理科の順に調査時間を設定して、文部科学省 CBT システム（MEXCBT）を用いてオンライン方式で実施。4月18日（金）以降は学校外での実施も可。

問題例：過去の全国学力・学習状況調査より

全問題については、国立教育政策研究所 HP をご参照ください。

中学校・国語 (令和6年度) 話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有 (話し合うこと)

藤田さん: 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を買って読んだ。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん: たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んでくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっていると感じませんでしたか。

藤田さん: そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がしますが、(国)のこのあたりにはいい感じですね。今井さんは、みだんどうやって本を選んでるんですか。

今井さん: 私は、図書館や書店で本を選んで、読みたい本を見つけては時間がかかりますが、本棚を眺めると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がる感じがしています。

藤田さん: 図書館や書店でいろいろ本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が豊富な状態にはならないでしょうか。

山岡さん: そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している人の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響を受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん: そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん: フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考える必要があると感じました。昔さんは、これからのように本を選ぶほうだと思いますか。

出題の趣旨 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

正答例 今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出会いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。

中学校・理科 (令和4年度) 押して使うばねを科学的に探究する (「エネルギー」を柱とする領域)

5) ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。(1)から(3)までの各問に答えなさい。

押して使うばねを探る場面

ばねのばねは、加える力の大きさと比例の関係がありました。

ばねは、生活中で押して使うことが多いですね。

ばねを押すときも、比例の関係が成り立つのかな。

グループで個人の考えを検討している場面

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。

測定の結果

力の大きさ(N)	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5
ばねの長さ(cm)	10.0	8.0	6.0	4.0	4.0	4.0
縮む長さ(cm)	0	2.0	4.0	6.0	6.0	6.0

【考察】

出題の趣旨 考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる。

小学校・理科 (令和4年度) 問題を解決するまでの道筋を構想、追加された情報を基に、より科学的な考えへの検討・改善 (生命に関する問題)

1) ひろしさんは、【問題】をもとに、飼育しているナナホシテントウの観察の記録を整理しました。

(ひろしさんが記録を整理したもの)

【問題】 ナナホシテントウの育ち方は、どのような順なのだろうか。

5月16日: 大きさが1mmのたまご → 5月19日: 大きさが2mmの幼虫

5月28日: 大きさが9mmの幼虫 → 6月8日: 大きさが8mmの成虫

ひろしさんは、記録を整理したものをもとに、【問題】「ナナホシテントウの育ち方は、どのような順なのだろうか。」に対するまとめを書きました。

【問題に対するまとめ】 ナナホシテントウの育ち方は、たまご、幼虫、成虫の順である。

しかし、同じナナホシテントウを観察していたあきらさんは、〈ひろしさんが記録を整理したもの〉がじゅうぶんではないことに気づきました。

〈あきらさんの記録〉

ナナホシテントウの観察
6月4日 晴れ 26℃

・すがたが変わり、動かない。
・アブラムシは食べていないようだ。
・さなぎになった。

6月4日にも観察しているのに、この記録も参考にしてみよう。

(2) 〈ひろしさんが記録を整理したもの〉に、〈あきらさんの記録〉を加えます。ふさわしいまとめになるように、上のひろしさんの【問題に対するまとめ】を書き直しましょう。

出題の趣旨 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

正答例 ナナホシテントウの育ち方は、たまご、幼虫、さなぎ、成虫の順である。

小学校・算数 (令和6年度) 立方体についての考察

3) (3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

出題の趣旨 球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる。

正答 22×22×22

小学校・算数 (令和6年度) 道のりと時間と速さ

4) (4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストまで、5分間かかりました。

家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

出題の趣旨 速さの意味について理解しているかどうかをみる。

正答 分速200m